

研究課題：両側内包後脚に拡散強調像で高信号を呈する病変の後方視的多施設検討

研究の概要と目的：MRI (magnetic resonance imaging) はX線被ばくを伴うことなく、いろいろな疾患を画像で描出することができる検査です。特に脳疾患においては形態だけでなく機能評価も可能となっています。MRIには様々な撮像方法がありますが、その中でも拡散強調画像は急性期脳梗塞をはじめ、様々な疾患における病初期の異常所見を検出する撮像方法です。また、この研究の対象である内包後脚は錐体路をはじめ、臨床的に重要な神経路が密に走行している部分で、この部位を侵す病変の拡散強調画像での鑑別診断や特徴を分析することは、早期かつ正確な診断を行うため臨床的に重要な意味を持ちます。この研究では、これまでに蓄積された1.5Tおよび3T装置を用いた脳のMRI画像を解析することで、病態解析や治療評価、予後予測などにMRIがどのように寄与するかを検討します。しかし、両側の内包後脚に異常信号をきたす疾患の頻度は多くないため、複数の施設とともに解析を行います。

本研究の対象：本研究の対象者は2003年1月1日から2014年12月31日の間に脳のMRI検査を受けられた患者さんのうち両側の内包後脚に異常所見を認めた方です。

方法：内包後脚病変の拡散強調画像でのMR信号強度、ADC値、異常信号分布などについて、視覚的評価と定量的評価を行います。また画像と臨床データとの関連、各種治療、予後などの関連についても評価を行います。

研究機関：杏林大学医学部・放射線医学教室

本研究への参加と個人情報の保護：本研究への参加を拒否されても何ら不利益は生じません。本研究に参加することで特別な謝礼などの資金援助はありません。また患者さんの費用の負担もありません。研究対象に使用する画像データは院内で厳重に保管し、患者さんのプライバシーの保護、人権保護には最善を尽くします。学会や論文発表は個人情報を匿名化して行われますので個人情報が漏えいすることはありません。2003年1月1日から2014年12月31日の間に脳のMRI検査を受けられた患者さんで、撮影された画像を研究対象として使用することに同意できない方がおられましたら下記までお知らせください。

問い合わせなどの連絡先：杏林大学医学部・放射線医学教室 担当：五明美穂

Tel: 0422-47-5511 / 5512 (内線 5041)